



ダニエル 聖パウロ聖堂(ローマ)

ダニエルが見た幻はユダヤ民族の特異な表現である黙示文学、隠喩と言えるものです。ダニエルは畏怖や恐怖を覚える幻に大いに憂い、その意味、秘儀を知ろうと思ひ巡らし、悩み、疲れて病気になるほどでしたが、それを書き記しました。

最初の幻は **4 頭の獣**(鷲の翼を持つライオン・3本の肋骨を啜えた熊・4つの翼と頭を持つ豹・強大な鉄の歯と10本の角を持つ獣)でした。その時、同時に **日の老いたる者**が王座に座り、幾千万人もが仕えている様子と、天の雲に乗って**人の子**が**日の老いたる者**のもとに進み、王権を授かる幻も見ました。その場にいる人に説明を求めると **4 頭の獣**は地上に起ころうとする4人の王であるが、いずれも凶暴であり、特に4番目は非常に恐ろしい。聖者らが戦い、苦しむが、やがて**日の老いたる者**が進み出て、裁きを行い、**天下の全王国の王権、権威、支配の力は、いと高き方の聖なる民に与えられ、その国はとこしえに続き、支配者はすべて、彼らに仕え、彼らに従う(7:27)**と言葉を受けました。イスラエルが復興するという幻は謀反につながる幻で、ダニエルは恐れました。

次に**雄羊と雄山羊**の幻を見ます。川岸に立った**雄羊**は西、北、南に突進して力を振るう。すると西から現れた**雄山羊**が**雄羊**を倒すが力尽きて角が折れる。その角から4本の角が生え、そのうち1本の角が強大になり「麗しの地」を踏みにじり、聖所を倒すという幻でした。この時、勇士のような姿をした天使ガブリエルが現れ、説明をします。**雄羊**はメディアとペルシアの王、**雄山羊**はギリシアの王で、最後の角は罪惡の極み、高慢で狡猾な一人の王であるが、**ついに最も大いなる君に敵対し人の手によらずに滅ぼされる(8:25)**と告げられますが、神の裁きについては秘密にするようにと命じられます。。

ダレイオスの治世になり、ユダヤの地への帰還と神殿再建について承知していたものの、ペルシアの宮廷で仕えなければならなかったダニエルはエレミヤ書を読んでいます。70年間の捕囚という神の裁きの時の長さを覚えて、懺悔と救いを求めて祈りを捧げている時、天使ガブリエルが再び現れ、**ダニエルよ、お前を目覚めさせるために来た。お前が嘆き祈り始めた時、御言葉が出されたので、それを告げに来た。お前は愛されている者なのだ。この御言葉を悟り、この幻を理解せよ(9:22)**とダニエルを慰め、励まします。けれどもとこしえの正義が到来するまで**70週のさだめ**があり、最後の最後まで戦い、荒廃は避けられないが、ついにその荒廃も破滅すると告げます。

ダニエルは3週間にわたり、嘆きの祈りを捧げていた時、**一人の人**の幻を見ます。その人は**目を上げて眺めると、見よ、一人の人が麻の衣を着、純金の帯を腰に締めて立っていた。体は宝石のようで、顔は稲妻のよう、目は松明の炎のようで、腕と足は磨かれた青銅のよう、話す声は大群衆の声のようであった(10:5)**とあります。その人の手に引き起こされて、「愛されている者よ」と呼びかけられ、ダニエルは「主よ、お話しください」と、終わりの時についての言葉を聞きます。それはペルシア王国とエジプトの戦い、ギリシア王国の台頭、更にその後、代わって立つセレウコス王朝を暗示する、**覇権の興亡の姿**でした。このような苦難が続くのは**終わりの時に備えて練り清められ、純白にされるためである(11:35)**とし、必ず、定められている終わりの時が来るが、その時には大天使長ミカエルがイスラエルの民を守護すると言います。理解できずにいると、**一人の人が** **ダニエルよ、もう行きなさい。終わりの時までこれらの事は秘められ、封じられている。(12:9)**と諭し、**終わりまでお前の道を行き、慰いに入りなさい。時の終わりにあたり、お前に定められている運命に従って、お前は立ち上がるであろう(12:13)**と託されている使命に従って生きるようにとダニエルを励まします。